

# 在学生の声

## 「研究室での日々」

高木 杏理

(食品・応用生命科学コース4年)

「食品の研究をやりたい」という思いから、食品創製科学研究室(永井毅研究室)を選びました。「衣食住」は生活の基礎と言われるように、ヒトにとって必要不可欠な要素です。以前から食品に関して興味があるだけでなく、この山形県に貢献できる研究ができないかと考えていました。私は山形県出身ではありませんが、4年間生活するこの場所で、自分の興味ある「食」で何か形に残したいと思いました。



3年次後期から研究室に配属



## 「将来へ向けて」

亀山 龍太郎

(食農マネジメント学コース3年)

山形大学へ行きたい。そう私が考えるようになったのは、大学入試が迫るセンター試験の後のことでした。栃木県河内郡上三川町出身の私は、以前より山形大学とは別の県外の大学を志望していましたが、成績の不振から断念。他の大学はどうかと両親や高校と相談を重ねた結果、希望に最も合致していた山形大学農学部を選びました。

正直入学直後の私は、あまり山形大学に良い印象を持っていませんでした。もちろんクラスやサークルで新しい友人と知り合い、初めての一人暮らしを送るなど山形大学での生活は貴重な経験でした。しかしそれでも、今まで希望していた進路から外れたことは非常にショックで、1年生の頃は無気力かつ自堕落な生活を送っていた自覚があります。

そんな私に転機が訪れたのは、2年生へと進学し鶴岡へと移った春のことでした。配属された食農マネ

され、初めは様々なことに慣れるので一杯でした。「今まで講義で学んだ食品の知識を実践する」簡単なことのように思いますが、いざ取り組むと理想の結果とならないことも多く、くじけそうなる時もありました。しかし、私の研究室はチームとして取り組んでおり、仲間と共に考え、実行し、話し合いながら商品化に向けて努力してきました。意見が異なることもありますが、より良い商品を作り上げるためには厳しい意見も必要です。このように多くの課題を克服した結果「遊佐産お米のグラノーラ」として商品化することができました。約11ヶ月の努力が報われた時の嬉しさは今でも忘れることができません。また、研究することは重要ですが、時には一息つく時間も必要です。春は花見、夏は暑気払い、秋には3年生の歓迎会、冬は忘年会等多くの行事が開かれました。食品を扱う研究室のため、店で買うのではなく自分たちで料理します。地域の旬の食材を用い、春夏秋冬それぞれの味を楽しむことができます。また、生産者の思いや忘れがちな食に対する感謝の念も思い出させてくれます。研究は決して楽なものではなく、辛い日々もありましたが、これらの行事により「また頑張ろう」と気持ち切り替えることもできました。時に厳しい時もありますが、私たちがのことを常に考えて下さる先生には感謝しきれません。また友人

ジメント学コースで専門的な経済学を学び、地域の人々と文化と触れ合い、同コースの友人や先輩と共に学ぶうちに、私は今まで以上に農業へ関心を持つようになりました。特に2年生の夏に友人の勧めで始めた「だだち豆収穫のアルバイト」は衝撃的な体験で、1年生時に参加した農家体験実習に続き、農業の現場を直に経験できたことは、これからの農業を考察する上で重要な参考資料になりました。そして3年生となり研究室に配属されたからは、地域活性化の実現に向けた取り組みや著名な経済学者の論文を考察、討論するなど、さらに一歩踏み込んだ経済学を学びました。また、様々な地域に赴く実習の機会も増え、地方の現状を詳しく知ることができました。このような地方に密着する学習を行うことができるのは、山形大学ならではの強みであると私は思います。

そんな私の次なる目標は、「大学院への進学」です。可能であれば、山形大学とは別の大学院へ進学しより見聞を広めたいと考えています。それには卒業論文の作成に尽力し、「将来のビジョン」を明確にする必要があります。しかし、私のそれは未だ定まっていないう不明瞭な状態です。だから、私は残された時間の中で確かな将来へ向けて精進していきたいと思っています。山形大学ならば必ずできる、そう私は信じています。

をはじめ、1年半共に過ごした研究室の仲間の支えがあったからこそ、楽しく笑い、喜びや悲しみを分かち合いながら充実した毎日を送ることができました。多くのことを学び、様々な方との出会いがあった大学生活ですが、特に研究室での日々は私にとってとても濃く、商品化できたことはかけがえのない思い出となっています。卒業後、県外に就職しますが、この経験は社会に出て必ず役に立つと思います。残りの学生生活や研究室生活を有意義なものにし、山形大学に入学して、そしてこの研究室に決めて良かった。そう思い続けられる場所でありたいと思います。

**菜あ** 農家の宿 母家

住所 〒997-0006 山形県鶴岡市福田甲41  
☎0235-25-8694 HP:e-naa.com  
小野寺喜作(昭和54年農学科卒)

**あべ農園**

刈屋梨幸水(8/25~9/10)  
2L 5kg箱 2800円 送料800円

庄内米「特別栽培つや姫」(10/5~)  
5kg 2500円 送料800円

山形県酒田市城輪字大場12  
阿部重彰 TEL・FAX 0234-28-3000  
(携帯) 090-5234-6775



**Al-ché-cciano** アル・ケッチアーノ

地元食材を使用した飲食店運営  
オリジナル商品の開発・販売  
イベント企画・運営 などを通じ  
生産者様とお客様を全国でつないでいます。

株式会社オール・ケッチアーノ  
〒997-0341 山形県鶴岡市下山添一里塚83 tel.0235-78-7230

新卒・キャリア 採用行っております



創業以来40年の実績 専門技術者集団 **土と水と緑の調和を築く**

## 北海道三祐株式会社

◎私たちは新しい技術で、防災工事に貢献しています。

次々に発生する地震・津波、大噴火そして異常気象による洪水などにより、尊い命が奪われています。災害から人命やインフラを守るため、国を挙げての国土強靱化がスタートし、ますます我が社の技術力が期待されます。

	執行役員会長	早坂 武男(山形大学農学部 昭和41年卒)創業者			
	代表取締役社長	笹浪 圭吾(室蘭工業大学工学部 昭和59年卒)			

本社	北海道札幌市北区屯田6条8丁目9-12	TEL(011)773-5121			
東北営業所	宮城県仙台市青葉区柏木1丁目1-53-201	TEL(022)779-7236			
メール	h.sanyu@dosanyu.co.jp		ホームページ	http://www.dosanyu.co.jp/	



## 社会への貢献が私たちのテーマです。

株式会社理研分析センターは、「環境は次の世代からの預かりものである。」との観点に立ち、「分析技術をととして社会に貢献する。」ことをテーマとして積極的に活動します。



# 理研分析センター

特定計量証明(ダイオキシン類 極微量分析)

飲料水・作業環境・放射性物質検査(ISO17025)

環境計量証明(大気・水質・土壌対策・臭気・食品・廃棄物)

代表取締役社長 菅原 幸司(昭和49年農芸化学科卒)

HP:http://riken-ac.com

お問い合わせ ☎0235-24-4427

info@riken-ac.com



29 鶴窓会だより

鶴窓会だより 28



NKURUNZIZA CHRISTIAN

## 留学生の声

Japan is a good country, I really like.  
 I joined this master's in March 2016 and it was my second time to come here in Japan.  
 The first time was in 2012, in short time training, Tsukuba where I passed 2 months in Agriculture training. I really like how I have been given an opportunity to strengthen my capacity and this will help me to perform more in my research career.  
 Yamagata is located in Tohoku (North eastern) region. It is about 300 Km North of Tokyo.  
 It is a mountainous region with an abundance of Natural beauty including lakes, rivers, rice paddies and Ocean.  
 To reach Tsuruoka, they are different way of Transport, but one of is when you reach Narita Airport, you can use Narita Express, it takes 60 minutes to Tokyo station and from Tokyo station, you use Shinkansen for 180 minutes up to Yamagata Station and you take a high way bus to Tsuruoka station takes 120 minutes.  
 Yamagata University has 4 campuses. One of them is Tsuruoka Campus (Faculty of Agriculture) where I belong too.  
 Yamagata University ranked within Top 10th in the field of Materials Science in Japan.  
 We have a university farm located about 4 Km far from the campus. At this University far, practical study, education and research are pursued along with various activities of agriculture in the field.  
 I belong to Edaphology laboratory and Tsuruoka city is a nice agriculture research place. Always, I am with my supervisor and my co-supervisor in full time. And I really like the Edaphology laboratory led by Kakuda Sensei its way of working, students and supervisors are very focused to the work.  
 Some challenges, like Japanese language, but with time, I am trying to overcome in collaboration with my laboratory mates and I am making more efforts in learning it.  
 I am becoming familiar with the place and Japan in general.  
 My research topic is on efficient use of Nitrogen fertilizer. Using different approach like Site Specific Nutrient Management in comparison with Basal and Farmer Fertilizer Practices. Nitrogen fertilizer that I am using is Urea and Ammonium Sulphate and Plant test is Rice, Haenuki Variety. Kakuda Sensei and Sasaki Sensei, they did their best to make sure that my performance is raised. I like my laboratory mates for their team spirit.  
 One of the best academic experience. The education is very practical. Field work, laboratory analysis, research data presentation, progress reports, papers presentation. The way of learning here is among the best in the world, because, you complete your studies at a level of being employable at high research standard academically and in research.  
 Wednesday and Friday, I play Mini-Football and Tuesday and Thursday, I play Basket ball, and some time with Rwanda fellow students, we practice our culture dance. My preferable sport is Basketbal, but I used to play Karate too and good enough this martial art has been introduced by Japaneses .  
 Every Sunday from 9:00 up to 10 Am, I go to play in catholic church. Also in Tsuruoka, they are other churches like Mormon church, Protestant Church, Buddhist Temple and others.  
 Here, Students enjoy their academic life in relaxing and laid back atmosphere of Yamagata  
 I am very interested in the way, they organize seminar presentation. And Field work, most of the time, we start our field work at 8:00 and after field work, we come back in our laboratory and continue our work either by laboratory analysis or desk work.  
 My stay in Japan is a good opportunity to understand Japanese history, tradition, lifestyles, customs, contemporary Japanese of thinking. I am so happy on the way my laboratory mates benefits also from my English by making more efforts in communicating with me, then they increase their English speaking level. Our supervisors stimulate them also to use commonly the English by making a lot of presentations.  
 Our laboratory is becoming among the best in the campus because of the way our supervisors are very rigorous and focused to the work. I like also how my supervisor requested me to be his Assistant professor; this will build my capacity in interacting with undergraduate students in making more efforts to come up.  
 I used to know Japan when I was learning History and Geography about Hiroshima and Nagasaki, Japanese Technology, and My Dad most of the time told me about the war between Japan and USA. My geography high school teacher taught us a lot about Japan that he read in the book and luck enough. I am living the reality.  
 There are some similarities between the way of Japanese living and my country Rwanda and also a lot of differences.  
 I still have to say that having made my decision to come on an exchange to this country is one of the smartest choices, I have made in life.  
 Japan gives me warm feeling, I can call it my second country. I love Japan. I thank JICA for giving this opportunity and The Tsuruoka for hosting us.

## 支部報告

### 北海道支部(月山会)

月山会会長

磯部 勝彦

(昭和52年農業工学科卒)

北海道は、8月に四つの台風が襲来し、農地、農業用施設に甚大な被害をもたらしました。

河川の堤防決壊による浸水や長期にわたる降雨による土砂流出が被害を拡大し、札幌と帯広を結ぶ交通網は国道、鉄道とも不通となり、高速道路が唯一通行可能となっている状況です。

被災地では、昼夜を問わず復旧に向けて作業を行っており、被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。復旧作業にあたられている方々に対して敬意を表し、1日も早く日常の生活に戻れること祈念いたします。

さて、月山会(鶴窓会北海道支部)は9月10日(土)16時から、札幌市内のホテルで25名(この度の災害等により5名が欠席)の会員の参加により開催となりました。

開会にあたり会長菅原義昭

氏(農業工学科40年)より、今回鶴窓会事務局の名簿から300名近くの会員に案内状を送付できたこと、豪雨災害の農業への影響など挨拶の後、鶴窓会からいただいた大学産の日本酒を片手に副会長早坂武男氏(林学科41年)の乾杯で開宴となり、会員各位の近況報告や久しぶりの再会にそれぞれ思い出話に華をさかせ、楽しい宴となりました。

今回の総会では、7年間会を牽引された菅原会長に代わり、磯部勝彦を4代目会長に、梶田敏博氏(農学科58年)を副会長に、満場一致で選出しました。

最後は、逍遙歌を皆で斉唱し、和やかな雰囲気の中、磯部新会長の締めで、来年度の再会を固く誓い合い散会となりました。

近年、若い方の参加が少なかったのですが、今年23年生物生産学科卒羽賀さん、12年生林学科卒後藤さんの2名に参加していただくことが出来ました。今後は、月山会を担う若い方が集えるような活気ある会にしていきたいと考えております。

(文責：原田 淳(農工60年卒))



月山会(北海道支部) 平成28年9月10日(土) 於: KKRホテル札幌

## 農業体験農場・栽培と加工

Yamagata Agri Academy

## 山形アグリアカデミー



おいしい山形推進機構一般賛助会員・やまがた避難者支援協働ネットワーク会員

代表 齋藤 博行(昭和45年農学科卒業)

事務局/〒990-2474山形市大字沼木433-27

TEL・FAX/023-645-1802 携帯電話/090-8251-3521

E-mail: saito433@ma.catvy.ne.jp

《昭和45年同期会を平成29年10月14日(土)に開催します》

おかげさまで

~70th~



〒990-0039 山形市香澄町2丁目9番21号  
TEL 023(622)8673 FAX 023(628)1828

## 庄内支部

「鶴窓会庄内支部総会  
開催される」

支部長

高橋敏能

(昭和45年農学科卒)

平成28年11月12日(土)山形大学農学部会館大集会室において30名の参加者のもと2年振りに支部総会が開催されました。本支部規約では「総会は原則として年1回」開催するとなっておりましたが、2年に1回総会の開催が実態でした。昨年度は、山形大学農学部後援のもと、加茂水族館前館長の村上龍男氏による「夕日を釣りあげた男」と題して聴講学生を含む100余名の出席者のもと講演会を開催しましたので、2年続けての事業になりました。

ご来賓に副支部長の村山秀樹先生と鶴窓会長佐藤農一様をお招きし、それぞれのご来賓からの祝辞を頂戴いたしました。村山先生からは、農学部における新しい取り組みとして、食・農・環境連携を担うグローバル人材育成事業、寄附講座「スマート・テロワール形成講座の開設」、地域定住農業者育成プロジェクト事業などが紹介されました。第三期の法人化に伴う積極的な中期目標が垣間見



百瀬清昭氏(S50年農学科卒)による講演

られます。また、両ご来賓から次年度開催されます「農学部創立70周年記念事業」の内容が紹介され、本事業を成功させるために目標募金額(500万円)に向けての卒業生からの寄附の協力依頼がなされました。

総会では、事業報告・計画および収支決算・予算が原案通り承認され、役員改選では顧問に阿部重彰氏(S48年農学科卒)、副支部長に芳賀修二氏(S46年農学科卒)が新たに選出されました。

引き続き講演会に移り元山形県庁職員だった百瀬清昭氏から、「庄内の田んぼの畦道から」ニューファーマー育成について考える」と題して、経験談を基にユーモアを交えて分かりやすくお話いただきました。



平成28・29年度 庄内支部総会 平成28年11月12日(土) 於：農学部会館大集会室

会費の納入にご協力下さい。  
一律2,000円となりました。

農学部創立70周年記念式典は  
平成29年10月14日(土)に開催されます。



## 村山支部

支部長

阿部 芳幸

(昭和45年農学科卒)

今年の支部総会は、9月9日の金曜日に山形国際ホテルで開催しました。平日の午後6時から開催し、現役や勤め人も出席しやすいようにと考えました。出席者は17名と少人数でしたが、参加者には山形大学名誉教授・客員教授である阿部利徳氏(昭和55年卒)が久し振りに出席され、持参されましたワインの話で大変盛り上がりしました。

支部総会への出席者が少ないという問題に、会費納入のことが考えられます。鶴窓会本部への一般会費の納入者が21%しかいません。年会費を納入していない方は、支部総会には出席しにくい面が見えてきます。

さらに、村山支部の会員数は一般会員647名に加え、平成19年度以降卒業者の前納20年会費納入会員138名を合わせて785名の大所帯で

す。例年、総会案内の往復ハガキへの返信そのものが少ない状況にあり、役員会の話し合いで「今後の支部総会案内は不要です」と考えている方のチェック欄を設けました。

その結果、出欠の返信を見てみると、出席返信16名、欠席返信86名、今後案内不要返信148名の約250名から返信をいただきました。しかし、残る500名以上からは、返信そのものをいただけませんでした。今後案内不要と返信された方は、高齢などのため出席できないという方が多い傾向でした。でも鶴窓会だよりは楽しみも通かいたいただきました。

少ない会費納入率と少ない総会出席率で、なかなか現実には厳しいところですが、出席いただいた方々の顔が見えて、より身近に感じられた面もあり、色々考えさせられた支部総会になりました。



村山支部総会 平成28年9月9日(金) 於：山形国際ホテル

## 置賜支部

副支部長

佐藤 誠一郎

(昭和55年農業工学科卒)

本支部は、昭和38年に発会され置賜地域の三市五町の同窓生で構成しております。

総会は隔年開催、来年(平成29年)の開催を予定しております。今年、2月に米沢市内において恒例の寒鰯幹事を開催(9名参加)して日本海の味を堪能したところです。

さて、置賜(オキタマ)という地名はアイヌ語の「ウキタム」が原語とか。ウ(広い)、キ(禾木植物)、タム(湿地帯)つまりは「広いイネ科植物の生えている湿地帯」とのこと。

上杉藩時代には、米沢から各地に通じる街道が整備され、明治11年にはその街道の一つである「越後街道」を英国人女性旅行家「イザベラ・バード」が越後側から進み、



置賜支部寒鰯幹事会 平成28年1月23日(土) 於：米沢市喜久好

厳しい時を越え、米沢盆地を眼前にした際「東洋のアルカデア」と称した地でもあります。

また、明治14年には当時の県令三島通庸時代、日本の近代トンネル建設技術の嚆矢となった栗子隧道が完工し、明治天皇に「万世大路」と命名された幹線道路が整備されております。時は流れ、平成29年度には、8972メートル(東北の長さ)の新栗子トンネルが開通します。会員の皆さんも「歴史と食の置賜」に是非お越しいただきたいと思っております。